

南丹の川づくり ～地域とともに『365日の川』づくりをめざして～

南丹土木事務所河川砂防室

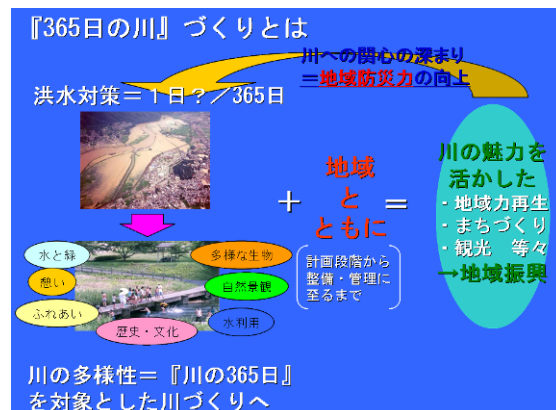
【概要】

1年365日の内1～数日の洪水を対象とした川づくりから、自然、歴史・文化、景観など川の持つ多様性を活かすため、365日を対象とした川づくりを進め、地域振興につなげていこうと、計画から整備・管理に至るまで、地元やNPO等と連携・協働して取り組んでいます。

背景

- ◇ これまでの河川整備は社会的な要請もあって、洪水を安全に流して浸水被害を防止するというを最大の目的として進めてきました。
- ◇ このため、以前と比べ治水に関する安全度は着実に向上してきた反面、一方で環境、景観をはじめ川が持つ多くの機能が損なわれ、暮らしと川の関わりも薄れてきたことは否めません。
- ◇ 川は、歴史・文化を育み、発展を支えるなど地域の暮らしと密接に関わり、また魚類をはじめ多くの生き物の生息環境でもあります。

- ◇ このような川の多様性(=川の365日)に着目した川づくりを進め、川らしい川を保全・再生していくとともに、これを地域と一緒に取り組んでいくことにより
 - ・地域と川の関わりを深める
→地域力再生のフィールド
 - ・川の多様性の利活用
→川の魅力を活かしたまちづくり、観光開発、交流連携など、川を核とした地域振興につなげ、さらには川との関わりがより深まることにより、洪水に対する地域防災力の向上にもつながっていくものと考え、この取組を進めています。



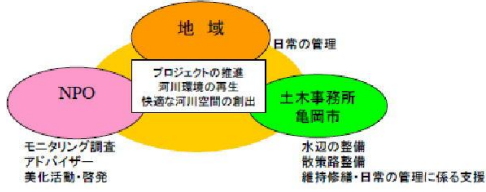

目的

「地域とともに『365日の川』づくりを進める」

取組

◇保津川かわまちづくり	
目 標	保津川（桂川）改修で生まれた広大な河川空間を“桜の名所”、“歴史と自然のフィールドミュージアム”に！
概 要	○亀岡市をはじめ多様な主体との連携・協働により、計画から整備・管理に至る持続可能なしくみを構築して、桂川改修で新たに生まれた約 50ha に及び広大な河川空間について、川とまちの魅力を活かした利活用を図る
計画策定 実施体制	○亀岡市と共同してH23.2月に計画を策定 <ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者、地元有識者等からなる検討委員会の設置（6回開催） ・市民団体（26 団体）等による意見交換会を開催（2回開催） ・パブコメ、シンポジウム（ワークショップ）を実施
実施状況	○H23 年度から多様な主体による推進協議会を設置し、計画の具体化に着手
<p><参 考></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画策定及び推進体制</p> <p>検討委員会 第1回 H21.12/29 現地調査 H22.2/5 第2回 H22.3/5 第3回 H22.7/12 第4回 H22.11/4 第5回 H23.2/18</p> <p>保津川かわまちづくり 計画策定 (京都府・亀岡市) 計画検討 中間案 ○パブリックコメント H22.11/14～12/13 ○シンポジウム H22.12.12 計画とりまとめ (基本方針)</p> <p>意見交換会 第1回意見交換会 H22.4/24 第2回意見交換会 H22.9/2</p> <p>～H22 H23～</p> <p>(仮称)保津川かわまちづくり 推進協議会 学識者 行政 自治会 NPO 地域団体 事業者</p> <p>実 施 (整備・管理・運営)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>利活用の例</p> <p>「保津川花回廊」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保津川のシンボル ・トツと保津川下りを結ぶ観光動線 <p>「千本松の復元」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明智光秀縁とも 言われる千本松 ・かわとまちを結ぶ 動線として復元 </div> </div>	

◇美山川やすらぎの川づくり	
目 標	日本一のアユが棲むやすらぎの美山川に！
概 要	○美山川の水と緑の豊かな河川環境の保全・再生 ○魚類をはじめ多くの生き物にとって、さらに訪れる人々にとっても“やすらぎのある美山川”づくりを、地元漁協や振興会と連携・協働して進める
計画策定 実施体制	○学識経験者、地元有識者等からなる検討委員会を設置（3回開催）して、計画を策定
実施状況	○平成 21 年度から概ね5ヶ年計画で整備中
<p><参 考></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>整備状況：瀬・淵の再生（浚渫）</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>整備状況：遡上改善（堰の撤去）</p> </div> </div>	

◇西川再生プロジェクト	
目 標	ホテルが飛び交う西川に“再生”！
概 要	○沿川の宅地開発に伴い改修され直線的かつ単調となっている西川の河川環境を再生（せせらぎの再生、水辺の小径整備、河川環境保全活動 等）
計画策定 実施体制	○地元市、自治会、NPO（2 団体）とプロジェクトを組織して、計画や実施方法を協議調整 ○それぞれの役割分担のもと継続的に実施
実施状況	○H23.1 月から整備に着手 ○NPO 等がモニタリング調査や清掃活動を実施
<p><参 考></p> <p>プロジェクトの枠組み</p>  <p>整備（再生）イメージ</p> 	

◇アユモドキの保全	
目 標	アユモドキがどこの川でも普通に見られるように！
概 要	○亀岡と岡山にしか生息していない国の天然記念物のアユモドキの保全を目的とした河川環境の保全再生（産卵場の改善、生息環境の保全・創出、生息域の拡大 等）
計画策定 実施体制	○研究者、地元「アユモドキ保全協議会」と連携 ○アドバイザー会議を設置して保全対策計画を策定
実施状況	○H20 年度から、アドバイザー会議の助言を踏まえ、継続的に実施中 ○モニタリング調査を実施
<p><参 考></p>  <p>アユモドキ</p> <p>生息環境の保全（石積護岸）</p>  <p>産卵場の改善</p> <p>生息域の拡大（魚道の設置）</p>  <p>生息環境の創出（ワンド）</p> 	

効果

◇ 保津川かわまちづくりでは、本格的な事業施に先立ち、モデル地区を選定し、地元自治会とワークショップによる河川敷の利活用の検討を始めています。当自治会は、様々なまちづくりに積極的に取り組まれており、今回も「保津川かわまちづくり」の趣旨に賛同いただき、隣接して整備が進められている農業公園と河川の一体的利活用が図れるよう検討を進めています。その成果の第一弾として、地元自治会と協働で「保津川花回廊」の一部整備に着手しました。自治会が桜ともみじの植樹を、府がその基盤整備を行うもので、2月19日には自治会主催により、桜と紅葉の植樹祭が開催されました。

また、NPO主催により、保津川の今後の利活用を考えるシンポジウムが2月12日に開催され、保津川かわまちづくりの実現に向けた地域の機運の盛り上がりを感じるものとなりました。

亀岡市では、平成23年1月に策定された「第4次総合計画～夢ビジョン～」で、この「保津川かわまちづくり」の推進が位置付けられるとともに、明智光秀縁とも言われている「干本松」の復元に向けた予算が新規に計上されました。

◇ 美山川では、計画に位置付けているかやぶきの里前の整備にあたり、地元「美山産官学公連携協議会 景観・環境保全プロジェクト」との共催によりワークショップを開催して、整備計画づくりを行いました。地域の観光拠点周辺での整備であり、地元振興会や自治会をはじめ活発な意見交換のもと計画をとりまとめることができました。

また、地元環境保全団体やNPOの主催により、河川美化活動として「クリーンリバー作戦」が開催されています。

モデル地区での「保津川花回廊」のイメージ



地元自治会主催の植樹祭



NPO主催のシンポジウム



ワークショップの様子



かやぶきの里前の整備イメージ

- ◇ 西川では、府が水辺の小径を整備する一方で、地元では隣接土地の形状変更によって、現在では不要となっている堤防法面の一部用地を買い取っていただくといった相互の協力のもとに整備計画を策定することができました。

また、NPO により魚類等の生息調査や、1 月には地元自治会と協働で清掃会が開催され約 90 名の参加がありました。

整備状況（魚道）



清掃会の様子



- ◇ アユモドキの保全については、平成 20 年度は稚魚の激減により危機的な状況にありましたが、地元関係者の保全活動と本取組みが相まって、平成 21 年度は推定 2000 匹にまで回復しました。

また、本取組みを NHK 京都放送局で取り上げていただき、多くの方々から高い評価をいただきました。

NHK（京いちにち）



現 在

- ◇ まだまだ一部の河川での取組であり、その成果も限定的と言わざるを得ませんが、自治会、NPO、研究者等とのパートナーシップが構築され、取組は着実に進んでいると感じています。
- ◇ 進めている取組箇所ではその進捗を、また新たな取組箇所の掘り起こしを行っており、現在、地元からの要請もあって、新たに 2 箇所で貴重動植物の保全や城下町の風情と調和した川づくりを地域とともに進めるため、関係機関と調整を進めています。

振り返りと今後の課題

◇課題

- ・まちづくりの主体である関係市町のより積極的な参画が不可欠
- ・継続的な取組となるような施策体系やしきみづくりが必要
- ・委員会やワークショップによる計画づくりにあたっては、目的と役割分担を明確に

◇今後に向けて

川づくりは、今後とも、人々の生命と財産を守る治水対策を最優先にすることは言うまでもありません。一方で、川には多様な機能があって、京都の鴨川に代表されるように、地域の暮らしに密接に関わってきたこと、またそれは時代の変化とともに大

大きく変化してきたことを意識した川づくりも重要です。

そのような中で、かつての関わり方をそのまま復活させるのではなく、歴史・文化を踏まえつつ、今日的な課題である、例えば環境保全や地域力をキーワードに川との関わりを再構築し、川の持つ多様な機能を再認識することによって、まちづくりや地域振興に活かしていけるような、そんな「川の365日」を意識した川づくりをめざして、今後とも取り組んでいきたいと考えています。



企画総務課コメント

洪水を想定した砂防の視点から、「365日の川づくり」と発想を転換したことで、川全体を通じたまちづくりや地域振興に広がりを見せた事例です。

河川砂防の視点からだけではなかなか見えて来なかった地域の住民や自治会、NPOなどとのパートナーシップが強まり、住民目線による取組となりました。

さらに、この活動を管内の他地域の活動へ広げていくための仕組みづくりやより住民主導の取組となっていくような仕掛けづくりが必要です。